

## 日英教育研究フォーラム／日英教育学会 研究大会の歩み

結成記念大会 テーマ	1992 年7月28 日 1980 年代の教育改革	早稲田大学国際会議場
第2回大会 テーマ	1993 年7月26 日・27 日 教育史研究の現在	中央大学駿河台記念館
第3回大会 テーマ ゲスト	1994 年8 月27 日・28 日 教育社会学の現在 スティーブン・ポール(ロンドン、キングス・カレッジ)	国立教育研究所
第4回大会 テーマ ゲスト	1995 年8 月23 日・24 日 職業資格問題 ジョン・ミッチェル(スコットランド視学官)	早稲田大学国際会議場
第5回大会 テーマ ゲスト	1996 年8 月31 日・9 月1日 教師教育の動向と課題 リチャード・オールドリッチ(ロンドン大学大学院教育学研究科)	立命館大学末川記念館
第6回大会 テーマ ゲスト	1997 年8 月26 日・27 日 1980 年代教育改革の意義 ゲリー・マカロック(シェフィールド大学)	早稲田大学教育学部
第7回大会 テーマ ゲスト	1998 年9 月17 日・18 日 教師教育の将来 ピーター・ギルロイ(シェフィールド大学)/清水 潔(文部省高等教育局)	早稲田大学国際会議場
第8回大会	1999 年9 月6 日・7 日	京都大学楽友会館

テーマ 高等教育改革に関する日英比較  
ゲスト ロナルド・パーネット(ロンドン大学院大学教育学研究科)

第9回大会 2000 年9 月30 日・10 月1日 早稲田大学国際会議場  
テーマ 21 世紀の学校教育とカリキュラムの構造  
ゲスト マイケル・F・ヤング(ロンドン大学院大学教育学研究科)

第10 回大会 2001 年9 月29 日・9 月30 日 早稲田大学教育学部  
テーマ 教育とセクシュアリティ  
ゲスト ダイアン・レナード(ロンドン大学院大学教育学研究科)  
マイケル・ライス(ロンドン大学院大学教育学研究科)

第11 回大会 2002 年9月29 日・30 日 早稲田大学  
テーマ イスラームと学校・教育  
ゲスト ジェフリー・ウォルフォード(オックスフォード大学グリーンカレッジ)

第12 回大会 2003 年7月20日・21 日 京都女子大学  
テーマ 英国の教育界における〈公私〉関係の現状とその示唆するもの  
ゲスト ヴィヴィアン・アンソニー(前全国校長会事務局長)  
\*この年から日英教育学会と改称

第13 回大会 2004 年7月26日・27 日 東京都立大学  
テーマ 「第三の道」?としてのニュー・レイバーの教育政策  
ゲスト シャロン・ゲワーツ(ロンドン大学キングス・カレッジ)

第14 回大会 2005 年7月23日・24 日 佛教大学  
テーマ 教育におけるキーワードとしてのミドルクラス  
ゲスト スティーブン・ポール(ロンドン大学教育学大学院)

第15回大会 2006年 7 月29日・30日 東京都立大学  
テーマ 比較教育の昨日・今日・明日  
ゲスト マイケル・クロスリー(ブリストル大学)

## 日英教育学会スカラシップの歩み

1998年 第一回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 松本 純 (明治学院大学院生)

「19世紀末ロンドン商業会議所による実学教育の取り組み」

受賞者 天童睦子 (早稲田大学大学院)

「ジェンダーと教育」

1999年 第二回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 小宮明彦(早稲田大学大学院)

「学校におけるヘテロセクシズムを越えるために」

2000年 第三回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

中止

2001年 第三回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 新井英靖 (茨城大学)

「イギリス特別教育史の構想」 (これ以降受賞論文は紀要に掲載される)

2002年 第四回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 小松佳代子 (流通経済大学)

「J・ベンサム立法論における統治と教育」

2003年 第五回 日英教育学会スカラシップ (改称)

受賞者 石黒万里子(早稲田大学大学院)

「ブレア新労働党政権の家族・教育政策」

受賞者 野上祥子(東京芸術大学大学院)

「イングランドの音楽科教員養成における理論と実践の統合」

2004年 第六回 日英教育学会スカラシップ

受賞者 該当者無し

2005年 第七回 日英教育学会スカラシップ  
受賞者 応募者無し

2006年 第八回 日英教育学会スカラシップ  
受賞者 該当者無し

## 日英教育学会紀要投稿規定

- 1) 投稿受付は随時とするが、最終締切は毎3月31日とする。
- 2) 投稿資格は本学会の会員であること。
- 3) 論文の形式は自由であるが、表紙にタイトルと氏名を明記すること。本文は註を含め、400字詰め原稿用紙50枚以下とする。英文の場合は5000 words程度とする。打ち出し原稿3部のほかに、英文要約(500 words以内)をつけ、フロッピー・CD-ROM・Eメール(テキストファイル、またはword文書)で提出する。論文は未発表のものに限る(口頭発表はその限りではない)。
- 4) 事務局は投稿論文を受け取り後、すみやかに3名から構成される審査委員会(うち委員長としての運営委員1名以上を含む)を設置し、論文の審査を依頼する。
- 5) 投稿論文は一切返却しない。
- 6) 審査委員会は提出された論文に対して修正を求めることができる。
- 7) 審査委員会の構成および審査過程、審査結果は公表しない。
- 8) 採用論文は本学会の紀要に掲載される。

### 論文提出先

〒1920369 八王子市南大沢1-1  
首都大学東京 人文・社会系 教育学  
大田直子研究室気付  
日英教育学会紀要担当